

待ち遠しい講義

学生部長 西村 清 巳



「講義の日の来るのが待ち遠しく、講義になるとその時間の過ぎるのがあまりにも早く、もっと聴きたいと感じた」。

これは、新渡戸稲造の講義を聴いた天野貞祐の言葉である。どちらも衆人の認める人物であるから、このようなふれ合いが生まれたのかもしれない。教える中身と教え方のすばらしさと聴く側の意欲が高かったであろうことは、想像に難くない。昨今の大学の映像を見ると、十分に反省しなければならぬことである。

教える側もわからせる努力をしなければならぬし、学ぶ側も学ぶ努力をしなければならぬ。十数年間教育現場で指導して、再び大学に学びに来られた人々の学習態度を見ると、また留学生の学習態度を見ると、多くの学生諸君の「学ぶ態度」は、あまりに弱いと思う。その必要性が分かっていないし、何のために、という目的意識も弱いように思う。学習は、目的と方法がわかったときでできるというが、そのどちらも薄弱なのではあるまいか。

図書館から新入生の皆さんへ

附属図書館長 前田 文之



皆さんは、これからの大学生活にいろいろな期待を持って入学して来たことと思う。大学生生活の主な目的は、もちろん一般的な教養を身につけ、それぞれの専門の学問について学ぶことにあるが、その過程を通して自分自身の能力や適性を再発見することが最も大事なことだといってもよい。

それには、正規の授業を受けること以外に、自分でいろいろなことをやってみることが必要である。そういうと、サークル活動がまず頭に浮かぶと思うが、同時に、本を読みながらもろもろのことについて思索に耽るのも、大学生の間に行えることの一つである。

大学の附属図書館には、正規の授業に必要な本や資料、授業の理解を助けるための参考書などがあることはもちろんだが、それ以外の面で皆さんの自己発見のために役立つような図書も、きつとあるに違いない。どういった本や資料があるのか、始めはなかなか分からないだろうが、図書館に入りし、書架を散策しているうちに、読みたいと思える本にぶつかるとは思えない。そういった図書館の利便の仕方もある。そう思った図書館の利便の仕方もある。そう思った図書館の利便の仕方もある。

東広島キャンパスには、中央図書館と西図書館、東図書館の三つの図書館がある。このほか、履キキャンパスに医学分館、東千田キャンパスに東千田分室がある。さらに、学部・学科によってはそれぞれで図書室を持つところもある。

これらすべての図書館・図書室の図書や雑誌は、広島大学の一員であれば、だれでも利用できる建前になっている。これらの図書資料は、広島大学共有の財産であり、折角の財産なのだから、できるだけ活用することを考えないと損である。皆さんの積極的な利用を期待している。

「必要は発明の母」というが、その必要がないまま、目的がないまま大学に来ているのではないだろうか。もう一度、何のために大学に来たのかを考えて、そのためには何をしなければならぬかを考えてもらいたい。教える側からも、学ぶ側からも、「待ち遠しい講義」を成立させたいものである。

(にしむら・きよみ)

(まえだ・ふみゆき)